地域で守る

災害発生時、現場でいち早く対応ができるのが地域。
その連携が、いざという時の被害を最小限に食い止める。
「守られる」から「守る」地域づくりを投げかけた災害の教訓。
「支え合い」「守り合う」意識と地域力の高まりが求められている。

↑6月7日に福智町消防団の約150人が土のう1200袋を作成。例年、梅雨の終わりごろなどに特に発生し、河川の氾濫や土砂崩れを引き起こしている集中豪雨への備えを強化しました。

災害に屈しない地域へ

福岡県西方沖地震の際、玄海島（福岡市西区）では島の大半の家屋が損壊する中、中学生がお年寄りに声を掛け避難するなど、島全体が互いに助け合って被害を最小限に食い止めたといいます。地震などの大規模災害の時は、同時に多くの地域で被害が出るため、消防や行政の助けに依存してはいられません。待ったなしの状態で避難を円滑に行うためには、自主的に助け合って行動する必要があります。

そこで注目したいのが「自主防災組織」。自治会などの単位で結成され、互いに助け合う仕組みを作り、いざという時に動ける住民組織です。今回の大震災でも、近所の高齢者の安否確認をしたり避難させるなど、多くの地域で自主防災組織が重要な働きをしたことが確認されています。

この自主防災組織の組織率（世帯カバー率）の全国平均は74・4％。しかし筑豊地区ではなんと15％にも満たず、福岡県平均も62％（全国37位）と全国平均には遠く及ばない状況です。

町内で唯一「自主防災組織」を編成している犬星地区（伊方）では、福祉員の呼びかけをきっかけに、構成員一人ひとりが地域のことを真剣に考えて団結。まずは「図上訓練」を実施して防災マップを作成しました。

近くの避難所、知っていますか？

町内には次のような避難所があります。家の近くの避難所を確認し、家族で災害時の行動を話し合っておきましょう。また、地震などの災害は、必ず自宅で被害にあうとは限りません。職場や習い事先で被災した場合の避難所も把握しておくと安心です。避難勧告や避難指示が発表されていなくても、危険を感じたら早めに自主避難してください。

自主避難所

災害発生の恐れがあり、住民が自主的に避難する場合、一時的に居住する施設。

- ■ 福智町役場
- ■ 中央公民館
- ■ 公民館方城分館

福祉避難所

体の不自由な人を優先する施設。

- ◉ コスモス保健センター

避難勧告・避難指示時の避難所

避難勧告や避難指示がなされた場合、住民が一時的に居住する施設。

- ● 金田体育センター
- ● ふれあい塾
- ● 金田中学校
- ● 方城保健センター
- ● ふれあい館
- ● ほのぼの館
- ● 方城体育館
- ● 中央保育所
- ● 伊方小学校
- ● 方城中学校
- ● やすらぎ館
- ● 弁城小学校
- ● 大浦隣保館
- ● 上野小学校
- ● 市場小学校
- ● 赤池中学校

避難場所

避難経路として一時的に利用する場所。（居住はできません）

- ・赤池グラウンド
- ・市場小グラウンド
- ・赤池中グラウンド
- ・上野小グラウンド
- ・方城グラウンド
- ・伊方小グラウンド
- ・方城中グラウンド
- ・弁城小グラウンド
- ・金田中グラウンド
- ・ふれあいスポーツ公園多目的広場

↑防災や防犯の図上訓練を行い、作成したマップを公民館に掲示している犬星公民館。地域新聞などを活用して防災情報の共有も図っています。

Interview
防災図上訓練に参加した **金山 玄浄** さん

「マップを見ればブロック塀などが倒れて通れなくなりそうな道も分かります。日ごろから情報が頭にあれば、災害時の混乱を防げるはずです」と話す金山玄浄（げんじょう）さん（伊方）。今回の震災の直後、改めて防災マップを見直し、避難場所や避難経路を確認したといいます。

「犬星では、高齢者宅の家具の立て付けを助け合って行うなど、日ごろから地域のつながりを大切にしています。こういった信頼関係の積み重ねが、いざという時の地域力となり、災害時の人的被害を食い止めるのではないでしょうか」。

福岡県は、本年度から自主防災組織率の向上を目指し、市町村への助成金交付制度を決定。災害に備え互いに助け合う「共助」の地域づくりを支える仕組みが整えられています。